年度終盤も
明るく楽しく元気よく参りましょう！

国際ロータリー第 2590 地区ガバナー　**樋口 明**

皆様、こんにちは。

能登半島地震発災から２ヶ月が過ぎましたが、今もなお少なくとも２万人以上が避難所や親戚の家に身を寄せたりしている状況で、長期におよぶ厳しい避難生活を余儀なくされております。

当地区におきまして、「被災地支援についてのご協力（義捐金）」をお願いしたところ、全 52 クラブの皆様にご理解いただき、ご支援を賜りました。横浜鶴見北 RC の牧井秀賢会員の台湾のご友人からは、10,000US ドル（1,474,600 円）、当地区米山学友会より 10 万円のご寄付もあり、地区として総額 600 万円を第 2610 地区の指定口座に送金させていただきました。

また、当地区の米山学友会元会長であるジギャン・クマル・タパさんは、ネパール人協会の方々と被災地の珠洲市や七尾市でネパールカレーの炊き出しをしてくださり、「熱々のカレーに被災者から笑みがこぼれた」と多くのメディアで紹介されました。

皆様には、心より御礼申し上げます。

今後も被災地の一日も早い復旧、復興に向けて支援を継続してまいりたいと思っております。

３月は、「水と衛生月間」であります。

ステファニー・アーチック会長エレクトは、１月の国際協議会で次年度会長テーマである「ロータリーのマジック」のエピソードとして、ご自身の所属クラブが行ったドミニカ共和国での浄水器の設置活動の際に、ロータリーのマジックを目にしたと紹介されています。汚い水がフィルターに入り、反対側から透明な水が出てくるのを見ていた二人の少年が、「もう一度魔法を見せて」と言ったとのことです。「浄水器が魔法なのではなく、安全な水を簡単に入手できれば自分たちの人生が変わるということを、少年たちは知っていた」そして、「私が少しでもその力になれたと知ったことで、私の人生も変わったのです」と述べられております。

当地区でも支援を必要としている国や地域に、井戸を 100 本以上も寄贈しているクラブやグローバル補助金を活用して水洗トイレを設置しているクラブ等、「水と衛生」に関わっている多くのクラブがございます。今後も必要とされる支援活動がさらに展開、拡大されますことを望んでおります。

いよいよ、次年度長戸はるみガバナー年度に向けての３大研修（ラーニング）が「地区チームラーニングセミナー」を皮切りに始まりました。当月は PETS（会長エレクトトレーニングセミナー）、地区ラーニング協議会（旧地区研修協議会）と続きます。ロータリーの単年度制に拘るあまりに「まだ今年度だぞ！次年度は出過ぎた真似をするな！」というクラブもあるやに聞いております。

そこは、クラブの未来を見据えて心を広く、柔軟に対応することが大事だと思っております。準備は早いに越したことはありません。

また、時々、情報や知識を小出しにする人や、簡単なことをあえて難しく言う人が見受けられますが、「ここはロータリーですよ、皆んな友人ではないですか」と言いたいです。次年度に向けてオープンにして構わない情報は、全て共有する。コミュニケーションを徹底することです。実は、そんな当たり前のことができていないのではないかと思っております。

迷った時は、クラブのため、クラブの仲間のために何をすべきかを第一に考えて、何事も「明るく、楽しく、元気よく」でいきましょう。

３月は、水と衛生月間です。